

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立肥前小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上への取組 ・特別支援教育の充実 ・授業や家庭学習での1人1台端末の活用
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、心豊かにたくましく伸びていく肥前っ子の育成
3 本年度の重点目標	① 心の教育の充実（一人一人を大切にできる仲間づくり） ② 学力向上（学習意欲を高め、生涯学習の基礎を培う） ③ 体験活動の充実（『本物に触れる体験』・『感動体験』）

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・授業内容の基礎基本の定着に向けた授業実践	○学力向上対策シートに基づき、学習内容の定着に向け、共通実践できた教師80%以上。	・校内研修等で情報を共有し、共通実践に生かしていく。 ・一人ひとりの学習状況をしっかり把握し、個に応じた支援に力を入れる。	B	・校内研修等でしっかり情報を共有し、各学年で実践しているところである。 ・朝の時間にスキルタイム等を実施し、個に応じた問題を出し、学力向上に努めている。	A	・全職員が学力向上対策評価シートに基づき、校内研修を通して学力向上の実践について理解し、実践していくことができた。 ・各学年の学力の状況を踏まえ、レベルアップする取り組みをしっかりと行うことができた。	A	・「学校の授業が楽しい」と多くの児童が回答していることが学力向上につながっていると思われる。このまま伸ばしてほしい。 ・様々な取組とそれに応えようとする児童の努力、スキルアップが感じられる。	・学力向上コーディネーター ・研究主任	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・「こころのひろば」や道徳の授業実践を重ね、子どもたちの姿を見取るために道徳ノートを活用する。 ・どの学年も道徳に時間「県版人権教材」を取り扱い、人権についての意識を高める。	B	・全学年道徳ノートを活用しながら授業を進めている。道徳で学習したことを生活の中で思い出したことがある児童は79%、誰に対しても優しく親切にしていると回答した児童は92%であった。更に道徳の実践力を高め、自己肯定感を高めていく授業を継続していく必要がある。	A	・道徳の時間における「佐賀県版人権教材」の活用について、6学年中5学年で実施した。 ・人権・同和教育教材「ざるにはざるを」の校内での公開授業を4年生で行った。また、6年生において「解体新書うらばなし」の授業を実施した。	A	・人権については、早い時期から取組み、日頃から意識をもつことが大切である。多くの機会をつくっていることが伺えた。 ・道徳教育の進め方において、いろいろな工夫が感じられる。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると解答した教員90%以上	・月末に生活アンケートを行い、早期発見につなげ、気付き等を共有する。 ・毎月の生活指導協議会で共通理解し、組織的に対応する。	A	・毎月生活アンケートを行い、児童の様子を細かく見とることができた。 ・職員間ですぐに情報共有をし、組織的に対応策を考え、取り組んでいる。	A	・必要に応じて、児童と面談を行ったり、生活協議会でも情報共有したりして、いじめの早期発見、早期対応へつなげることができた。 ・保護者との連携を図り、すばやく指導支援することができた。	A	・職員が児童のことをよく知っていることに感心する。普段からこうして密に関わりをもっていれば、深刻ないじめは起きないと思われる。小さないじめも芽の段階で摘むことができるので、安心していい。	・生徒指導主事	
	●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学校校生活のあらゆる場面で、児童の「がんばり」や「よさ」を見取り、その場で直接声掛けをしたり、児童みんなに紹介したりする。また、職員で共有する機会を設ける。 ・道徳や学活等の中でのキャリア教育の充実と、地域の人材バンクを活用した体験活動の充実を図る。	A	・運動会等の学校行事を通して、全職員が児童に関わり、そのがんばりや良さを見つけてその場で褒めることができた。 ・人形浄瑠璃の学習や、ヨット体験学習など、地域で活躍している方々と関わる体験活動を行うことができた。将来や自分の目標に向かって学び続けることの大切さを学ぶことができていた。	A	・87%の児童が「先生は良いところと認めてくれる」と回答している。今後も、全職員が児童に関わり、その頑張りを褒めて認めていきたい。 ・88%の児童が「将来の夢や目標をもっている」と回答している。また、地域の人材バンクを活用した、様々な体験学習に取り組むことができ、意欲的に活動する児童が増えた。	A	・職員が一人ひとりに寄り添い、耳を傾けて指導していることが、児童の生き生きとした表情から伝わってきた。信頼関係が築かれていることを感じる。 ・職員が児童と日常的に深い関わりをもっていることが、自己肯定感にもつながっていると思う。授業を参観する中でも、職員の児童に対するまなざしや接し方が温かいと感じた。	・特活部主任
	○お互いを認め合い、一人一人を大切にできる仲間づくりの充実	○「お互いの良いところを認め合うことができるようになった。」と思う児童80%以上	・「構成的エンカウンター」を行い、学級活動の充実を図る。 ・「ありがとうの木」の取り組みを年間を通して行い、お互いの良さを伝え認め合う。	B	・構成的エンカウンター「言葉のプレゼント」や「4つのなかから」等を学校全体で取り組むことができた。友達のよさを伝えたり、新たに友達のよさに気付いたりすることができた。「ありがとうの木」の取り組みも、楽しみながら継続ができていた。	A	・98%の児童が「お互いの良いところを認め合うことができています」と回答している。「ありがとうの木」の継続的な活動や構成的エンカウンターを取り入れた学級活動の充実が学校全体で取り組むことができた。	A	・玄關に掲示されている「ありがとうの木」は目を引くものがある。何気ない「ありがとう」の言葉から、児童間、児童と職員の心のつながりが感じられる。お互いの良さを認め合う素晴らしい取組みだと思う。	・特活部主任	
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上	・年に2回の「お弁当の日」を活用して、元気に学校に登校できる健康的な体をつくるには食事をバランス良く取ることが大切であることを意識づける。 ・1月の全国学校給食週間では、健康給食委員会による給食や食事についての興味・関心が高まるような取り組みを行う。	B	・「健康に良い食事をしている」と回答した児童は92%でありほとんどの児童が好き嫌いせず食事を摂取できていることがわかった。また、お弁当の日にはほとんどの児童が自分にあったレベルのお弁当づくりに取り組み、3大栄養素について意識する機会となった。	A	・学校給食週間では、全校学活で食育に関する絵本等の動画視聴を行い、給食センターの方への感謝の手紙を全校児童が書く取り組みを行った。児童の感想から「センターの方が一生懸命作っていることがわかり食べ残しがないようにしたい」「安全に気を付けて作ってもらってありがとうございます」など給食の有難さに気づく機会となった。	A	・地域の方々との交流を通しての食育活動、また、体験を通しての有難さも分かり、感謝の気持ちが芽生えることで、心豊かになると思う。 ・給食センターへの方が児童からの感謝の言葉を受け取られ、どれだけ喜ばれたかが想像できる。日頃の感謝の気持ちを伝えることはとても大事だと思う。	・保健主事	
	●健康・体づくり	○健康に気を付けて、進んで体を動かすことのできる児童の育成。	○熱中症対策に留意して、縦割り活動やマラソンタイム、縄跳び月間の取り組みを含めて、休み時間等に体を動かしした児童70%以上	・給食の時間の委員会の放送等で、委員会の児童による呼びかけを行い、天気の良い日は進んで体を動かす雰囲気醸成する。 ・夏場は、熱中症対策をとりながら、安全に外遊びをするように促す。	A	・給食の時間に、体育委員会の児童による呼びかけを行い、外遊びを促したことで、アンケートでは85%の児童が「外で体を動かしている」と答えた。今後も引き続き、放送での呼びかけや全校遊び、縦割り遊び等の取り組みを通して、外遊びを促していきたい。 ・熱中症対策として、水分補給の声掛け、塩分タブレットの配布、体育の授業中の適度な休憩等に取り組む、熱中症予防の意識づけを行うことができた。	A	・体育委員会の児童により外遊びの呼びかけを行ったり、全校遊びに取り組んだりした。全校遊びでは、普段、外遊びで他学年と関わることはない児童も、様々な学年と交流し、楽しむことができた。また、持久走・縄跳びタイムの取り組みも行い、アンケートでは「外で体を動かしている」と答えた児童が80%以上であった。次年度も、引き続き自主的に外で体を動かそうとする意欲を高めていきたい。	A	・暑い日も雪の降る日も、児童が元気に遊んでいる声が地域に届いている。佐賀県スポーツチャレンジ3位となった、8の字跳びでの表彰も素晴らしい。社会体育での活躍についても、児童の良い刺激になればいいと思う。	・保体部主任
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議における時間短縮と効率化を図る。 ・定時退勤日の実施と、タイムマネジメントを意識した働き方への取組を図る。 ・業務効率化につながるアイデアを出し合い、実践する。	B	・会議の効率化を図り、勤務時間内に終わることを目標としたが、時間オーバーとなった会議があった。時間削減のため、連絡事項等は「毎日の掲示板」でのパソコン入力を活用し、職員が共有できるようにしている。 ・定時退勤日については、学校統合直後の実施は難しかったが、2学期後半から18時目標退勤が浸透してきた。しかし、全員が時間外勤務月平均45時間以内というのはできていない状況である。	B	・会議の精選等で放課後の時間を確保したことで、職員の時間外勤務時間も徐々に縮小できた。時間を意識し、メリハリをつけた働き方が定着してきたが、全職員が時間外勤務月平均45時間以内というのは達成することができなかった。 ・定時退勤日には、職員が相互に声を掛け合い、ほぼ実行することができた。	B	・今年度は3校の統合で、事務的なところに時間を取られたかと思う。児童にとっての良い環境というのは十分達成していると感じるので、職員にとっても最適な環境となるよう期待している。 ・職員がそれぞれの立場で大変努力していることが進捗状況や実施結果においても伺えた。	・管理職
	○チームワークによる計画的な業務推進	○チームワークを意識して、業務に取り組めた職員の割合80%以上	・行事等への取組後の振り返りを重視し、改善点を明確にする。 ・各部内で連携して、提案内容を検討し業務の効率化を進める。	B	・各部会での計画に話し合いの場を設け、3校のよさを取り入れた行事等の提案、実践を行っている。 ・「チームワークを意識して、業務に取り組んでいる」と回答した職員は93%であった。今後もチームワークのよさを生かした計画的な業務推進を図っていく。	A	・各部会での話し合いを充実させ、統合1年目の取組みについての振り返りを重視し、改善点を明確にしながら次年度の計画作成につなげることができた。	A	・3校それぞれの良さを活かした取り組み、地域の人材を活用した行事等、目を見張るものがある。地域の人材は豊富であるので、どんな声掛けを行ってほしい。	・管理職	
	●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○配慮を要する児童について、共通理解し、連携して支援に当たることができたと考えた教員80%以上。	・配慮が必要な児童の支援方法について定期的に情報交換や共通理解の機会を設ける。 ・特別支援教育に関する研修会の実施。	A	・前年度までの3校の個別の教育支援が必要な児童の資料を集約・整理し、職員間で情報交換しながら支援方法や適切な就学について話し合うことができた。必要に応じて、保護者や関係機関と連携し、支援を行っている。 ・特別支援教育研修会については12月実施予定。	A	・特別支援教育エリアリーダーを招いての研修会は、実践に役立つ情報が得られて大変好評だった。 ・支援が必要な児童について、職員間で日々情報共有しながら支援方法を考えることができた。 ・配慮を要する児童について共通理解・連携できたと考えた職員は100%だった。	A	・配慮が必要な児童への支援、サポート活動等に親身になって取り組まれていることが授業参観や学校からの説明を通して伝わってきた。	・特別支援教育コーディネーター
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
	○一人一台端末の活用	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○一人一台端末の活用	○タブレット端末の活用	○タブレット端末を使って学力向上に取り組んだ教員90%以上	・タブレット端末を使った授業を提案し、教育情報化推進リーダーとICT支援員を中心とした授業改善を図る。 ・タブレット端末を使った授業を取り入れた個別最適な学びや協働的な学びを採る。	B	・タブレット端末を使い、児童が自分で毎日の下校についての入力を行うことで、タブレット端末の活用を推進することができた。 ・タブレット端末を使った活動や授業について、教育DXより講師を招聘し、研修を深めることができた。	A	・児童がタブレット端末を使って、自主的に学習する機会を設定したり、チームズでのやり取りを活用に行ったりすることができた。 ・タブレット端末を用いた実践や現状について、大学より講師を招聘し、研修を深めることができた。	A	・他校に遅れることなく、積極的にタブレット端末に触れ、活用していることは大変素晴らしいと思う。また、日本の伝統文化である文字を書くことや、書や紙の文化も大切にしてほしいと思う。	・情報教育主任	
	○開かれた学校づくり	○学校統合後の保護者・地域との連携の充実	○地域の役に立った、ふるさとのよさを知った、感謝の気持ちを持ったという児童80%以上	・保護者・地域の方や外部講師を招聘した連携型の体験活動を通して、自己肯定感を高めたり、地域への愛着を深めたりできるようにする。	B	・地域の方を講師として招き、体験活動に取り組んでいる。また、PTAとの連携を図って活動したり、地域の事業へ積極的に参加したりして、地域への愛着を深めている。	A	・各学年で地域の方をゲストティーチャーとして招いたりして、体験的な学習ができる講座を申し込んで体験したりして積極的に取り組んだ。また、学年や個人で地域の事業に参加し、地域への愛着を深めることができた。	A	・地元の仕事や産業に直接触れ、体験して学ぶことにより、将来地元に残り、後継者として発展や存続に貢献してくれることを期待したい。 ・今後も田野地区、納所地区の方々との交流をぜひとも活発に行ってほしい。	・管理職 ・教務主任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学校統合最初の1年も、地域の方々から多くの協力を受け、児童は貴重な農業体験学習や地域学習を行うことができた。海と山の豊かな自然や歴史、そこに暮らす人々の思い、地域独特の行事を学び、肥前地区のすばらしさに改めて気づく機会となった。 ・課題である学力向上に関わる手立てを見直すとともに、学校・家庭・地域の連携を強め、児童の学びを支える環境づくりに力を見い出していく。特に、読解力をはじめ文章表現力、語彙力等の向上についての取組を引き続き行っていく。 ・「お弁当の日」、「ありがとうの木」など旧入野小で大切にしていた取組を継続するとともに、旧田野小、旧納所小のよい取組を今後も取り入れながら、児童の心身を育んでいく。 ・心の教育では、生活アンケートや心のアンケートの後に情報交換と共通理解を行い、Q-Uテストの実施後は研修会で分析を行い、学級経営に生かすことができた。今後いじめの早期発見、早期対応に努めていく。 ・職員の働き方については、設定した時刻での退勤や定時退勤が徐々にできるようになり、業務改善の動きや意識改革が進んでいると感じている。
----------------	---